

在日大韓基督教会 宣教100周年標語

감사의 백년, 희망의 백년 感謝の百年、希望の百年 (데살로니가전서 5:18)

1月12日、在日大韓基督教会西部地方会と日本基督教団兵庫教区との共催による第25回日韓交流信徒大会が、日基督教団神戸栄光教会で開催された。この大会は、1984年に在日大韓基督教会と日本基督教団との間に結ばれた宣教協約を踏まえ、西部地方会と兵庫教区とが協約の実質化をめざし、85年以来、毎年1月の成人の日で開催してきたものである。四半世紀もの時代の流れにも途切れることなく、今回25回目の記念の大会を迎え、169名

西部地方会

日韓交流信徒大会開催

神田裕神父を招き、新生と共生について学ぶ

1月12日、在日大韓基督教会西部地方会と日本基督教団兵庫教区との共催による第25回日韓交流信徒大会が、日基督教団神戸栄光教会で開催された。この大会は、1984年に在日大韓基督教会と日本基督教団との間に結ばれた宣教協約を踏まえ、西部地方会と兵庫教区とが協約の実質化をめざし、85年以来、毎年1月の成人の日で開催してきたものである。四半世紀もの時代の流れにも途切れることなく、今回25回目の記念の大会を迎え、169名

1月29、30日、カトリックさいたま教区事務所と別所沼会館において、外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会(外キ協)の第23回外キ協全国協議会が開かれた。「宣教課題と

の報告もあった。共生をテーマにした講演の中で、在日韓国人、在日ベトナム人と続けた後に、「在日日本人」と語っていたのが印象的であった。その後、10分団に分かれて、講演の内容について討



の現状と新



2009年 宣教師及び総会 神学生集中講義及び研修会

対象：総会神学生と加入宣教師 期間：2009年3月2日(月)～6日(金) 参加費：1万円 交通費：奉仕教会が負担 主催：総会神学校 後援：中部地方会 問い合わせ先：総会神学校教務・韓聖炫牧師 godlove1953@ybb.ne.jp/080-3355-3890

の報告もあった。共生をテーマにした講演の中で、在日韓国人、在日ベトナム人と続けた後に、「在日日本人」と語っていたのが印象的であった。その後、10分団に分かれて、講演の内容について討

の報告もあった。共生をテーマにした講演の中で、在日韓国人、在日ベトナム人と続けた後に、「在日日本人」と語っていたのが印象的であった。その後、10分団に分かれて、講演の内容について討

の報告もあった。共生をテーマにした講演の中で、在日韓国人、在日ベトナム人と続けた後に、「在日日本人」と語っていたのが印象的であった。その後、10分団に分かれて、講演の内容について討

「信徒指導者育成コース」 開講 生徒募集!

関東地方会では、今年4月より、一般信徒向けの指導者育成コースを開講することになりました。楽しく聖書を学び、教会でのリーダーとなっていきましょう。 授業日時：毎週木曜日 2時限 (10時～12時、13時～15時) ※クラスによっては夜間の時間帯も考慮 受講科目：新・旧約聖書、教理、教会史、KCCJ神学など(一年間コース) 講師：地方会の牧師 場所：総会神学校(駐車場あり) 受講料：5万円(年間) 今年1月から受講受付開始 問い合わせ：韓聖炫牧師(☎03-3890-3365)

外キ協全国集会と協議会を開催

「共生の天幕を広げよう」を主題に

1月29、30日、カトリックさいたま教区事務所と別所沼会館において、外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会(外キ協)の第23回外キ協全国協議会が開かれた。「宣教課題と



全国集会における演劇の様子

の報告もあった。共生をテーマにした講演の中で、在日韓国人、在日ベトナム人と続けた後に、「在日日本人」と語っていたのが印象的であった。その後、10分団に分かれて、講演の内容について討

の報告もあった。共生をテーマにした講演の中で、在日韓国人、在日ベトナム人と続けた後に、「在日日本人」と語っていたのが印象的であった。その後、10分団に分かれて、講演の内容について討

の報告もあった。共生をテーマにした講演の中で、在日韓国人、在日ベトナム人と続けた後に、「在日日本人」と語っていたのが印象的であった。その後、10分団に分かれて、講演の内容について討

の報告もあった。共生をテーマにした講演の中で、在日韓国人、在日ベトナム人と続けた後に、「在日日本人」と語っていたのが印象的であった。その後、10分団に分かれて、講演の内容について討

正初査経会と都諸職会を開催

西南地方会 信仰生活の基である礼拝について学ぶ

月4日に実施することになった。そして夕食を囲みながら交流会が「キリスト教界それぞれの取り組みとつながろう」と題して行われ、難民・移住労働者問題キリスト教連絡協議会、日本聖公会東京教区カバティラン、カトリックさいたま教区オーブハウスから活動報告を受けた。そこから見えるものは、難民申請者であれ、DV被害女性であれ、派遣労働者であれ、現代日本の矛盾が彼ら彼女らの生存そのものまでも奪おうとしているという現実である。

翌日は、西原廉太・立教大学教授による「天幕づくの教会論―共生共同体の聖書の原理」と題した聖書研究が行われた。西原教授は、新旧約聖書を貫く共生の原理が「天幕」であることを解き明かし、現在の教会が「天幕」のダイナミズムを回復し、共生共同体のモデルとなると同時に、共生共同体を社会の中で実現するために働かなければならないと述べた。

1月31日には、浦和カトリック教会で「第23回「外国人住民基本法」の制定を求める全国キリスト者集会」が開かれた。雨の中、さまざまな国籍の方々が100名近く集まった。主題「共生の天幕を広げよう」のもと、在日ベトナム人と日本人の演劇グループによる本人の演劇グループによる創作劇「テオドロ・ウアマン」が演じられた。アンデスの住民が日本へと働きに出るをええない過酷な現実を訴えるものであった。続いて、「外国籍住民の証し」として柳時京・立教大学チャプレン、マリッパ氏(日本バプテスト同盟カチン伝道所、デリア氏(カトリック行田教会)が、日本社会で暮らす上での困難さについて語った。

参加 中家盾牧師(日本キリスト教会)による開会礼拝「この人たちに食べさせるためには」(ヨハネ6:1-15)の後、佐藤信行(RAIK)の発題「2009年外登法・入管法改定の徹底検証、秋葉正二牧師(日本基督教団)の発題「外国人住民基本法」制定運動10年の到達点と意義、金耿英氏(横須賀教会)の発題「青年の旅・08年から09年へ」を受け、討論した。発題1については、今回の法改定について問題点を整理することができ、発題2をめぐっては、「日本の教会は、職や住居を失った人々を果たして迎えるような働きができるのか」という問い返しがあった。

発題3に対しては、日本人と在日韓国人の青年たちが共に日・韓の「教会現場」「歴史現場」を訪ねて学び合うことの意義を再確認し、今年度も7月28、8月4日に実施することになった。そして夕食を囲みながら交流会が「キリスト教界それぞれの取り組みとつながろう」と題して行われ、難民・移住労働者問題キリスト教連絡協議会、日本聖公会東京教区カバティラン、カトリックさいたま教区オーブハウスから活動報告を受けた。そこから見えるものは、難民申請者であれ、DV被害女性であれ、派遣労働者であれ、現代日本の矛盾が彼ら彼女らの生存そのものまでも奪おうとしているという現実である。

0名近く集まった。主題「共生の天幕を広げよう」のもと、在日ベトナム人と日本人の演劇グループによる本人の演劇グループによる創作劇「テオドロ・ウアマン」が演じられた。アンデスの住民が日本へと働きに出るをええない過酷な現実を訴えるものであった。続いて、「外国籍住民の証し」として柳時京・立教大学チャプレン、マリッパ氏(日本バプテスト同盟カチン伝道所、デリア氏(カトリック行田教会)が、日本社会で暮らす上での困難さについて語った。

難民移住移動者委員会委員長の谷大司牧師から「いま、モーセの十戒を読み返す」と題してメッセージがあった。メッセージの中で谷司教は、「派遣切り」やパレスチナのガザなど、現代においてもさまざまな場所で見られる「抑圧のシステム」に陥らないために、神はモーセの十戒を「解放のシステム」として掲げしてくださっていることを述べ、主に最初の四戒について解き明かした。

全国集会では、最後に集会宣言が採択された。

「報告：RAIK」

東京韓国YMCAアジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
関西韓国YMCAアジア青少年センター
〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

